

2017 年度点検・評価シート

※下記の指摘事項、課題を踏まえて、Ⅱ点検・評価 Ⅲ【達成目標】欄を記述してください。

（進捗状況を【現状説明】に記述し、必要に応じて新たに【目標】を設定する。）

2016 年度大学評価（認証評価）結果指摘事項 <概評> 教育目標、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針の適切性については、「学校法人大東文化学園自己点検・評価推進委員会」と「大東文化大学自己点検・評価委員会」が責任主体となり検証しているが、検証の過程において、学生への周知に関する有効性を検証できていないとしており、周知に向けた今後の検討を期待したい。
2016 年度外部評価委員会指摘事項 なし
前年度からの課題 （2016 年度点検・評価シート IV 次年度への課題 より転記） なし

Ⅰ 評価項目・担当部局

対象部局	文学研究科
評価基準 4	教育内容・方法・成果
中項目 4-1	教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針【自己評定 S】
点検・評価項目(1)	4-1-1 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。
評価の視点	学士課程・修士課程・博士課程・専門職学位課程の教育目標の明示
	教育目標と学位授与方針との整合性
	修得すべき学習成果の明示
点検・評価項目(2)	4-1-2 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。
評価の視点	教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示
	科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示
点検・評価項目(3)	4-1-3 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員（教職員および学生等）に周知され、社会に公表されているか。
評価の視点	周知方法と有効性
	社会への公表方法
点検・評価項目(4)	4-1-4 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。
評価の視点	責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。

Ⅱ 点検・評価 対象期間は 2016 年 4 月～2017 年 5 月までとする。（教員数、学生数などのデータの基準日は 2017 年 5 月 1 日）

【点検・評価項目ごとの現状説明】

4-1-1	文学研究科は、研究科の教育研究上の目的に基づいて、以下のように学位授与方針を定めている。 博士課程前期課程・修士課程は、所定の単位を取得し、以下のような能力を備えていると認められる学生に修了を認定し、修士（日本文学・中国学・書道学・英文学・教育学）の学位を授与する。 1. 人文諸科学の高度で専門的な知識と自国の文化への理解に基づいて国際化に対応することができる。 2. 既成の価値観にとらわれない独自の問題意識を持ち、それを論理的に解決することができる。 3. 各分野における現在の課題を、国内外の他者とのコミュニケーションを通して共有することができる。 4. 社会における高度な職業人としての自己の役割を自覚し、それに基づいて行動して社会に貢献することができる。 5. それぞれの問題意識や思考・判断のプロセス、結果を論理的で説得力のある文章で表現し、社会に向かってその成果を発信することができる。 博士課程後期は、所定の単位を取得し、以下のような能力を備えていると認められる学生に修了を認定し、博士（日本文学・中国学・書道学）の学位を授与する。 1. より高度で専門的な知識と自国の文化への深い理解に基づいて国際人として行動することができる。 2. 既成の価値観にとらわれない、より深い独自の問題意識を持ち、それを論理的に解決することができる。 3. 各分野における現在の深刻な課題を国内外の他者とのコミュニケーションを通して共有することができる。 4. 社会におけるより高度な職業人としての自己の役割を明確に自覚し、それに基づいて行動して社会の発展に貢献することができる。
-------	--

	5. より高度で深遠な問題意識や思考・判断のプロセス、結果を論理的で説得力のある文章によって表現し、社会に対してその成果を的確に発信することができる。
4-1-1	以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【 】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。 学位授与方針の策定について【×】 具体的事例：
4-1-2	文学研究科の教育課程の編成・実施方針は、学則に定められた教育研究上の目的と学位授与方針を踏まえ、2012年度に、文学研究科専攻主任会議で検討を行い、文学研究科委員会で以下のように明文化された。 博士課程前期課程・修士課程は、ディプロマ・ポリシーを踏まえて、以下のようなカリキュラム編成を行っている。 1. 研究能力を養成するための研究指導科目として演習科目を設け、修士論文を作成するための文献読解法および研究法を指導している。 2. 専門各分野の高度な専門知識を修得するための講義科目として特殊研究科目を設けている。 3. 専門分野に関係する分野の関連科目を設け、幅広い知識を修得するための講義を行っている。 4. 日本文学専攻・中国学専攻・書道学専攻の3専攻では外国語科目（英語・中国語）を設け、外国語の文献を読解する語学力を養成している。 5. 教育学専攻では、修士課程での研究にスムーズに取り組めるよう導入科目を設けている。 6. 日本文学専攻と中国学専攻の現職教員一年修了コースでは、一年間で修士論文を作成するために、「課題演習」という演習科目を設けて研究指導を行っている。 博士課程後期課程は、ディプロマ・ポリシーを踏まえて、以下のようなカリキュラム編成を行っている。 1. 博士論文を作成するための文献読解法および研究法を養成するために研究指導科目として演習科目を設けている。 2. より高度で専門的な知識を修得するために、専門各分野の講義科目として特殊研究科目を設けている。 3. 専門分野に関するより幅広く深い知識を修得するために関連科目を設けて講義している。
4-1-2	以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【 】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。 (1) 教育課程の編成・実施方針の策定について【×】 具体的事例： (2) 科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示について【×】 具体的事例：
4-1-3	文学研究科 5 専攻の教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針は、本学のホームページ、大学院案内に掲載され、大学構成員（教職員および学生等）に周知され、社会に公表されている。また、文学研究科新入生オリエンテーションでの説明で学生への周知強化を図り、その有効性については「修了時アンケート」に組み込むことで検証できるようにした。
4-1-3	以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【 】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。 (1) 大学構成員への周知方法と、その有効性について【○】 具体的事例：5つの各専攻協議会及び文学研究科委員会において報告をし、確認し合っている。 (2) 社会への公表方法について【×】 具体的事例：
4-1-4	文学研究科では、研究科と 5 専攻すべての教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について、毎年度の自己点検・評価活動を含めて、研究科委員会で継続的に検証を行っている(B4-1-6)。
4-1-4	以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【 】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の検証に関する責任主体・組織、権限、手続きについて【×】 具体的事例：

【効果が上がっている事項】

4-1-1	
4-1-2	
4-1-3	
4-1-4	

【改善すべき事項】

4-1-1	
-------	--

4-1-2	
4-1-3	
4-1-4	

Ⅲ 【達成目標】 目標の進捗状況は、「S：完全に達成」「A：概ね達成」「B：やや不十分」「C：不十分」で、評価する。

達成目標		目標達成の指標となるもの		評価				
				2014	2015	2016	2017	2018
中期目標 (2014～ 2018)	4-1-3 文学研究科の大学構成員（教職員および学生等）に対して、教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の周知度について検証する。	文学研究科の大学構成員（教職員および学生等）の全員が、教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針を認知している。	→			A	S	
16 年度 目標	4-1-3 文学研究科の大学構成員（教職員および学生等）に対して、教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の周知度について、各教員がそれぞれの教育の場において確認する。その結果を各専攻協議会、文学研究科委員会において報告、確認する。	各教員が確認した周知度について、各専攻協議会、文学研究科委員会において報告されている。	→			A		
17 年度 目標	4-1-3 文学研究科の大学構成員（教職員および学生等）に対して、教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の周知度について、各教員がそれぞれの教育の場において確認する。その結果を各専攻協議会、文学研究科委員会において報告、確認する。	各教員が確認した周知度について、各専攻協議会、文学研究科委員会において報告し、確認する。	→				S	

Ⅳ 評価専門委員会所見

16 年度目標 4-1-3 は A 評価で 4-1-3(1)は【○】、具体的事例も明確に記述されています。その他の 5 項目の取組みまたはその成果が無し(×)でした。17 年度目標も 4-1-3 としています。4-1-3(2)社会への公表方法について成果を上げることが望まれます。

Ⅴ 所見への対応

4-1-3 (1) 以外の項目について、成果が上がる取り組みが可能か否か、今後の課題としたい。

Ⅵ 次年度への課題

--

本項目の根拠資料（データ類、裏付けとなる資料）

A4-1-2 大東文化大学大学院学則 《既出》A1-2
A4-1-5 大東文化大学大学院案内 2017 《既出》A1-7
B4-1-12 大学データ集 《既出》B1-22

〔追加資料〕